

館報

庄内



庄内地区
平成30年11月1日現在人口
世帯数 6,894戸
男 7,412人
女 7,379人
合計 14,791人

発行 庄内地区公民館  
(ゆめひろば庄内)  
電話 24-1811  
FAX 24-1812

第11回 ドリーム庄内「秋のつどい」 秋晴れの中、「防災運動会」開催される！

10月21日、爽やかな晴天の下、防災運動会が開催されました。防災をベースにした運動会を行うことで、災害意識の向上を目的としています。3回目の今回は、今までより住民の団結を強く感じました。回数を重ねてきたことで、防災運動会が庄内地区に浸透してきているようです。



ほくも消防士。火事だ、それ消せ！



庄内タンカレース

毛布を使った応急タンカで土のうを運びます



「重いぞ〜!」ようやくゴール! これも訓練です



みんなでつなぎ

元気いっぱい! 力を合わせてつなを引けて!



消防団の水槽で作った「庄内丸」にちびっこサンプライが玉入れ!

風雲! 庄内丸を攻略せよ!



騎馬戦!

世代を超えてパトンをつなごう! お父さん、がんばれ!



三世代団結リレー

子供たちに大人気! みんな、必死の形相です(笑)



パン食い競争

パン100個も子供たちがガブリ! 箸は用意するのにも大変!



絶品炊き出しカレー 400食が配られました。



カレーを食べたあんなにかうたばい



筑摩小金管バンドのみなさん

ドリーム庄内を彩る 庄内地区小中学校の演奏



並柳小スクールバンドのみなさん



開成中吹奏楽部のみなさん

庄内地区防災特集第 2 弾

身近に潜む数々の問題

館報編集委員会のインタビュー

前回の館報では、庄内地区も地震・水害に弱い地域であることと、災害に関する基礎的な知識について特集を組みました。館報編集委員会では、あらゆる災害対策について、様々な情報を皆様にお届けできるように引き続き議論を重ねていきます。

**A** 館報で災害や防災の記事を取り扱いたい。どのようなネタを掲載すればいいか、みんなの意見はどうだろうか？

**B** 災害対策で、地震と水害が一緒になっていることが問題だ。準備するものが全然違う。そこをはっきりさせよう。

**C** 庄内地区はどつちも弱い。具体的な対策や個人の備えはどこまでできているかを知ってもらふ必要がある。

**D** きめ細かいところも知ってほしい。例えばペットのいる家庭のこと。避難所にペットを連れて来られるか心配だ。

**E** 行政にはしっかり対策を講じてほしいが、我々でも何かできることがあるはず。例えば**食料の備蓄や災害時伝言ダイヤルの使い方**などだ。今は色々な情報が入手できるから、個人でできることだとして色々あると思うんだ。

**B** 情報といえば、●●避難所や××集合場所という言い方がたくさんあってよく分からない。整理する必要がある。

**C** そういえば、町会と企業が協定を結んで避難場所を確保しているところもあるらしい。

様々な制度や情報の意味を正しく理解することは大切なことです。しかし、改めて感じたことは、家族や仲間、町会の皆さまと会話を重ね、議論を深め、自分たちの身近にある問題について共に考えなければ、防災に強い庄内地区を作ることにはできないのではということですね。今回、委員会で行われた議論の一部を、皆さまへお届けいたします。一緒に地区の問題を考えましょう！

**B** それは「避難所」なの？それとも「一時集合場所」？あれ、どつちだっけ？

**D** 言葉を間違えるという意味合いが全然違う。東日本大震災の津波のときも、高台へ逃げなさいいけないのに、平地の避難所へ逃げてしまった事例があったよ。正しい言葉と意味を理解することの大切さをもっと周知しなければ。

**A** 確かに。最初のとおり庄内地区は地震も水害も怖い。同時に起こることだとしてありうる。地震と水害を区別して考えることは重要なな。

**B** 地震はいつ来るか予測できないが、水害なら天気予報である程度予測はつく。まず、水害対策から考えてみないか。

**C** 水害は必ず来るとして準備しないと。過去の事例から対策は進んでいるのだろうか、まだまだ不十分だよ。

**D** どんな対策しているの？

**C** 河川改修やポンプを設置して排水対策をしているとか。

**B** 河川改修は十分じゃないよ。草木が生い茂っている。大雨で流されて橋に引っかけたら、そこから水があふれて堤防が決壊する。もし上流で起こったら庄内地区全部が浸水してしまうよ。

**C** 行政に河川整備の要望を届けなくしていくことが必要

だ。やってくれないからと諦めたら何も進まない。

**D** 水害が起きそうになったら、どこへ逃げればいい？

**E** 基本は垂直避難。家の 2 階や高い建物へ逃げる。町会でも逃げる先がある程度決めていると聞く。

**D** では避難所はどう？地区が浸水したら避難所や備蓄倉庫は使えなくなるのでは？

**B** 去年の館報編集委員会の取材でも具体的な水害対策をしている町会は正直少なかった。

**C** 予算や時間の問題はある。でも少しずつ対策はしないと。

**A** では、館報ではまず情報を正しく伝えていくところから始めてはどうか？

**B** 伝えるべき言葉と意味は多いよ。さっきの避難場所の話もそう。勧告と準備だとしてどう違うの？

**D** 情報の意味だけでなく、実際に災害が起きた時に知らせる方法も改善・検証すべきだ。例えばあちこちに設置されたスピーカー。聞こえる場合とそうでない場合もある。ラジオやテレビからの情報や、市と放送局との連携とか、我々も色々知る必要がある。

**A** まず我々が色々なことを知ったり気づいたりすることから始めないといけないね。

地域のつながりを防災に！お互い助け合える関係を！

いかがでしたでしょうか？当委員会では、月 1 回のペーすでこのような議論を重ね、取材を行い、地区の皆さまへ館報をお配りしております。

ところで、皆さまのご家庭や町会の防災対策はどこまで進んでおりますか？ 実際の災害を想定した訓練、物資の備蓄、避難計画。それも地震や水害別に分けて考える必要があることにお気づきいただけただけです。ですが、1人で考えるより、大勢で知恵を出し合うことで、様々な視点で物事を見ることができたり、新しい対策案を生み出したりすることがあります。まずは議論を重ねて問題意識を共有していくことが大切なのではないでしょうか。

地域のつながりが薄くなり、隣の住民がどんな人か分からないといわれる今日この頃です。自分がよければいいのではなく、お互い助け合える関係を築いていく。支えあいの関係がいかに大切かは、もしかすると災害が起きる前では分からないかもしれませんが、今からでも遅くありません。一歩踏み出してみましよう！